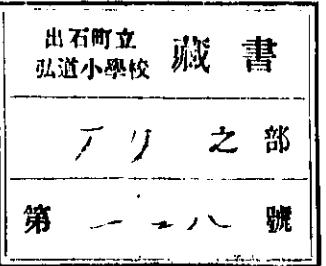


但馬考

立



200
260
8.五

出石

但馬考卷之七

但馬考卷之七

地理第五

城崎郡

郷

倭名類聚鈔三載凡所六

新田

城崎

三江

東佐

田結

餘戸

神社

延喜式曰城崎郡亡一座大一座小亡座

物部神社

久麻神社

穴目杵神社

女代神社

與佐伎神社

布久比神社

小江神社

久久比神社

耳井神社

桃嶋神社

氣比神社

久流比神社

兵主神社二首

深坂神社

重浪神社

縣神社 酒岳神社 西刀神社 海神社 大名

新田郷

弘安太田文曰長講堂領新田庄百六拾四町百六十步 領家三條

大政入道殿 御子女 地頭肥後三郎兵衛尉 爲重跡

今ノ村救

江本

今森

塙津

立野

コレ新田庄ト云

駄坂

木内

篠岡

牛谷

河谷

百合地

コレ六方ト云

六方ト云ハ太田文ヲ考ルニ新田庄ノ田地ヲ分テ領家方百四町
七反百六歩地頭方五十九町三反五十六歩トシ又地頭方ヲ分テ
丁分方亡四町八反小地頭肥後三郎左衛門為重女子周防守妻
二分方十七町四反小七八歩地頭甲斐入道為連後家尼四帳三分
方拾七町小七八歩地頭為重女子伊賀高公文分貳拾四町二反

百四十歩地頭伊藤三郎左衛門入道園東給コレヲモ東西三方
ニ分テリ以上領家分丁方ニ地頭分三方公文分二方ヲ合テ六方
ト云ヘ今上ニ舉ル六村ヲ指テ云ハ教ニヨリテ附會セルナラシスヘテ
新田郷中ニテノ別ナレハ六村ニハ限ルヘカラス又此田地ヘ沃ク
水ハ出石川ヲ分テ伊豆村ノ辺ヨリ引來ル故ニ其地ヲ新田堰ト
云俗間ニハ此嶽ノ名上代ヨリアルテラ知ラス此地ノ三閑山ニ新田
四郎君タリシト云或ハ新田左中將殿ノ次男義宗ノ居城タリ
シ時迄田ノ為ニ此堰ヲ設ケシユヘカク名ツケシナト松ナキトモ附
會シテイヒツリヌレハ此麓ニアリシ弁戈天ヲモ近キ比ヨリ新

田明神ト称シテ年コトニ祭シリ古日考ル人ハ一笑スヘキトニ

三閑山 山名、古城アリ沢菴ノ歌ナリトテ

但馬ナル富士トヤイワニ三開ノカズ之棚ヒク篠岡ノ里ニミース
彼家集

城崎郷

太田文曰長講堂領城崎庄七拾四町六反地頭南部太郎次郎入道行達

源平盛衰記ニ德大寺ノ實定綱ノ平宗盛三大將ヲコヘラシテ出家セント宣ニシタ近ク召仕ヒ給ニケル侍ニ佐藤兵衛尉近宗ト云モノス、メニ因テ平家ノ崇奉ル安藝ノ嚴島ヘ詣テ五ヒヤカテ左大將ニナリ亞ヒシカハ近宗ヲ左衛門尉ニ成ケルウヘ但馬國城

崎ト云大庄ヲ賜ルトアルハコノ所ニ

今ノ村教 佐野^{サノ} 九日 嫉樂寺 戸牧^{トベラ} 大礪^{ヲホツ} 小尾崎^{コフサキ}
豊岡 野田 新屋敷^{ヒトイナ} 一日市 下陰^{シモカゲ} 上陰^{ウエカゲ} 高屋^{コガヤ} 六地藏

九日 懿仁記重編曰文明三年三月廿三日山名彈正是豐^{トヨ}ノ子七郎ト云人但馬國九日表ヘ乱入ス九日ノ河向ニ七郎陳ヲ取ケレハ味方ニ心ヲ合セケル奈佐太郎ナント、云モノ共九日ノ西戸辺羅山ニ陳シケリ先日ノ城ニハ山名入道宗全力被官垣屋越中守入道宗忠縁^{ミツヨウ}亀王丸ヲ養育シ居タリ時ニ垣屋越中入道カ子平右衛尉馳合セテ戸辺羅山ヲ追崩シ奈佐ヲ始テ悉ク討取シカハ河向ニ陳ヲ取シ山名七郎捨鞭^{スダチ}ヲ打テ引退ヌ

延喜式ノ古代神社コニイロス今ハ同代トカク

妙經寺 法華靈場記曰日真上人但馬國九鹿トイニシ處ニ一寺ヲ修シテ妙經寺ト号シ玉フ是又大場ニテ諸堂教ヲ尽シテ僧房屢々ト軒ウナラフ今ハ荒廢シ其礎跡ハガナクモ無住庵トナリ侍

只ナケカニシキイ時災サイ

豊岡 武鑑曰江戸ヨリ百五拾三里

豊岡ハ山名ニ

龜城ト云今ノ城地ハ一郷ノ市場ナリシヲ中比開カル曰地ハ今ノ
新屋敷ト云所之此土ノ人ノイニ傳フルハ清和天皇ノ時安達
彈正信輝ト云モノ居タリシト證アルトニヤ康正コウジノ比山名宗全入
道ノ居タルヨシハ續太平記三見エ是亦外ニ考ル所ナシ天正八年
大閻當國ヲ平治シ玉ヒ宮部善祥房法印ヲコニ居シメ玉フ
天正十年因列島取へ移ル此時豊國五町ノ地子ヲ免ガル民人其
報恩ノ為ニ祠ヤシロヲ立テ是ヲ祭ル今ノ御靈ト称スルニレナリコノ年
末下助兵衛カリテヲル同十二年尾藤久右衛門同十三年明石
左近助文禄三年福魚右馬助豊後府内ヨリ移ル慶長三年杉原
伯耆守長房或吉惠ト云豊後杵築ヨリ移ル城崎郡二万石美倉ノ内千石
氣多ニテ千石常陸小栗五千石近江ニテ三千石都合三万石
ヲ領ス此年大閻薨去同五年閔が原ノ役ヲコル杉魚ハ閔東ニアリ
故ニ事十三元和元年大坂ノ役アリ杉魚氏東軍ニ屬スユヘヨシテ
全キーラ得タリ寛永十三年二月四日伯耆守卒ス華岳院ト謚
ス嫡子杉原吉兵衛忠近継正保元年卒ス子ナシ弟杉魚帶刀
重充ツグ領地半減シテ一万五千石ヲ賜フ義應三年重充卒
家断ヌコレヨリ御料トナル寛文八年京極公丹後田辺ヨリ移ル
領地三万五千石城崎二方其餘ハ美倉氣多養父内ニアリ
古板ノ武鑑ニ先主ヲ載トイヘ凡詳ナラサルニ今コノ地ノ傳記ニ因テ
具ニ記入

河合カ道記曰湯島ヨリ三里町長ニ町家ノ裏ヘ

舟ツクニ町中ニ出石ヘ行ノ道アリ川モ出石ヘ舟ニテ行ノ姿アリ
小田井縣神社 太田文曰山門無動寺領小田井社三十一町ニ
反八十步 領家日向律師昌範 地頭新藤五郎三郎盛綱
延喜式ヲ考レハ縣神社ハ小社ニ今ノ額ニ正一位ト云何時ノ勅許
ニヤ未考又是ヲ粟鹿養又出石組卷ニ合セテ五社ト称スルモ其始
ヨ知ラス右ノ四社ハ太社名神之真格ステニ別ナレハ古書ニ並ヘ称スル
モノナ、見ス當社ノ傳記ニヨレハ大己貴尊ニ山名家人時甚崇敬
社領ヲ寄附セラル毎年三月十日神幸アリ十一月祭礼ヲ行フ祠
官大石末次馬場三家アリ元龜天正ノ間兵乱大ニ起リ祠官離
散ヌタ、大石氏祭ヲ奉ス中古社僧アリ妙樂寺正法寺金剛寺
是ナリ天正以来ハ神事ニアツカラス

高屋 東鑑并ニ紹運錄ヲ考レハ雅成親王ハ後鳥羽院第三ノ皇
子ニテ六條ノ宮ト号ス承久三年七月王ノ師敗績シテ但馬國
ニ移サル嘉祿二年十二月國ニ於テ出家ス建長二年國ニ於テ薨ス
今モ此山ニ御所ノ谷ト云所アリコレ昔遷坐ノ跡ナリトイヒ傳ヘリ

三江郷

太田文曰上三江庄百四拾三町ニ反百拾步 領家東方二位律師
實秀 西方因幡法眼 安主 八木、五郎兵衛尉高秀御家人
松尾、社領下三江庄五拾四町三反三百歩鎌田庄ト号ス不出注
文一之間仕古帳註進之

今、村敷 庄境 鎌田 南谷 祥雲寺 法華寺 馬路
下宮 梓原 火撫 コレ鎌田庄ト云

山本 金剛寺 舟町 宮島 森

里上

古ヲ今俗ニ田結庄ト云、鶴城ニ田結庄左近將監ノ居ラレシヨリ
イヒナラワシタルナリ太田文ニ下三江庄ヲ一名鎌田庄ト云ニテ、
三江郷ハ此地ナルト明ニ然ビ太田文ニ上下兩庄ト上下ノ字恐シ謬ナラニ
愛宕古城 賽搜集三田結庄ノ古城ノ前ヲ過ルト見聞シ人ニ
跡ヲヨクタヌニ

コ、ハタレコ、ハタガスム跡ナリト語ルニ遠キ昔ニナリケリ
同ノ前ニ時メク人ノスヘトテモカ、ラハカル蓬生ノ宿

此山上古ハ鶴城ト云田結庄氏コレニ居ル此人元テ城モタヘニ今ハ愛宕祭ニ

大臣塚 賽搜集曰

音ニナル大臣ノ塚ハカノモ音ヤワスル吉ノ下ニテ

豊國ヨリ舟ニテ下レハ此塚ハ河ノ西ニアリイカナル人ニテカアリケニ未考。

奈佐郷

太田文ニ曰平等院領樋尻ノ庄六拾九町五反百七拾步 殿下渡庄
下司奈佐太郎高春 御家人 公文宮井太郎兵衛尉盛長
コレ中古ヨリ奈佐樋尻庄ト称ス表米ノ三男ラコニヲカレニテハ
下部ノ傳記ニ見エ鎌倉ノ時奈佐春高ト云モノアリ朝倉高清力嫡
子ヲ養子トシテ奈佐太郎高春ト云コレ奈佐氏ノ中興ナリ山名
ノ時篠部伊賀守コレニ居ル

太田文又國領八拾町四反百三拾步アリ下司公文上ニ同ニ

今ノ村數 岩井 磨江 宮井 庄村 吉井 野垣 福成寺
大谷 内町 辻 目坂 船谷 河合 太田文ニ河合ヲ河會ニ作

田結郷

太田文曰田結郷三町四反百六拾步 地頭平井小太郎入道
田結庄八拾町六反 領家嵯峨大臣家 地頭安藝左近藏人重近等
妙音院領大演庄三拾六町一反半 領家淨土寺僧正房 地頭
河越太郎藏人重氏

法勝寺領下鶴井庄六町壹反百拾步 領家真乘院僧正
預所教王院三位 法印 公文太田太郎政頼 田所下鶴井三郎秋
正御家人

白川千休阿弥陀堂領気比庄五十町壹反二百九拾步

領家左兵衛督房 地頭太田太郎左衛門尉政綱跡

今ノ村數

森津

瀧

新堂

岩熊

江野

伊賀谷

右大演庄ト云

下鶴井

赤石

結

戸島

樂浦

飯谷

畠上

三原

右下鶴井庄ト云

上山

簸磯

来日

今津

是ヲ灘ト云

氣比

田結

湯島

桃島

小島

瀬戸

津居山

ヨニ氣比庄ト云

結浦 歌枕名寄ニ讀人シラス

立飯リトクトイソゲトサレテクル結ノ浦ノカヒナカリケリ

右但馬ノ湯嶋ヘ行人結ノ浦ニテヨムヨミ能宣家集ニ見ヘシリ

景物 朝日影

釣舟

以上秋ノ寐覺ニ出入

樂浦

河合力道記ニ曰川端ナリ是ヨリ船ニテ湯島へ渡ル水上

半里ナリ船貨ハ定アリ此川ハ播州幾野ヨリ落ル川ニテ川
下、湯島ヨリ一里ハカリ下ニテ海ニ落ルナリ

生野、播磨ニアラス河合氏アヤニシ

飯全 弘法大師性靈集曰弟子僧真休為三元缺七々齋ヲ

設ケ并ニ傳燈耕田ヲ奉入スル頃文曰謹テ天長三年十月八
日以テ先人遺ス所ノ土佐國久滿并ニ田村ノ庄ト美作國佐良ノ
庄ト但馬國鉢谷田等ヲ永ク神護寺ノ傳法料ニ奉入ス

按ニ針各何レノ地十九丁ヲ知ラス飯谷ト音似タルユヘ後世誤ニシ
ル力今シハラクコニ記シテ他日ノ是正ヲニツノミ

氣比 太田文曰氣比村三十四町三反二百五拾步地頭太田左衛門

太郎政賴 河合氏道記曰南向キノ在所ハ田結村氣比村トイ

ヒテ白山トイフ高山ノ麓ノ宮ハ越前ノ氣比ノ明神ヲウツシタルナリ

延喜式神名帳ニ但馬國城崎郡氣比ノ神社トアリ

昔コノ所ニ宮代將監ト云モノアリテ越中次郎兵衛ヲ邊ニ置シト。

ナニ中古氣比ノ判官ト云モノモアリコレテ源氏ノ末葉十リニヤ

今モコノ所ニ八幡太郎義家ノ旌トテ持傳ヘタリ元亨釋書人

延朗大魚諺譏ノ性光三十義家四代ノ孫トアレハイカサニニセ

當國ニハ八幡殿ノ苗裔多カリシト見エ

絹卷 三代實錄曰光孝天皇仁和元年二月十日丙申但馬國

正六位上絹卷神ニ從五位下ヲ授ク 按ニ絹卷ハ山ノ名ナリ延

喜式ニテ、海神社名神木社ナリ曰事本紀曰天火明尊六世ノ孫

達田背命ハ神服連海部直丹波國ノ造但馬國造等祖ナリ新選一

姓氏錄曰但馬海直火明命之後也ト神系圖ニ但馬別城崎郡海部神

ニ祀ルト右ノ諸説三因テ考レハ海神社ハ海部直ヲ祭ルニ

河合氏道記曰緝巻山ト之岩山アリ此山ロトタシノ緝ラ巻タル形ノゴト
シ明神ノ社アリ但馬國中六社ノ内也 以上大河ノ東之
上山ウヤマ 太田文曰上山村四町三反三百五拾步 地頭藤藏人重直
ニ見浦フタミ 古今和歌集曰但馬ノ湯ヘニカリケル時ニ二見ノ浦ト云处ニ
トニリテタサリノカレイヒタウヘケルニトモニアリケル人々歌讀ケ
ルツイテニヨメル

藤原無輔

夕月夜ラボツカナキラ玉ノシゲニ見ノ浦ハ明テコソ見メ
宗祇法師諸國物語曰文月未但列ニ見ノ浦ヲ見ニカリケル
伊勢ニ同シ名所アリ過スギコシ春ハ勢列ノ其浦ヲ見シニ秋ノ季ハ
引カヘテ又此國ノ爰ニタル能因ノ都ノ霞白川ノ秋風トヨミニ
ニヤウ替リケリト佛諦シテ過ガシウタ

花ヲ東月カゲ西ニ二見カナ

澤庵和尚瞽搜集

時ナラハ舟サシヨセシ玉キ箱ニ見ノ清水冬ソカイナキ
河合氏道記曰ニ見ノ浦川ノ右之天神ノ社有テ其脇ニ清水アリ又
豊岡領主ノ茶店チャテンモアリ古今集ニ兼輔カ但馬ノ湯ニカリケル時ニ
見ノ浦ト云所ニトニリテトアルヲコノ事ニトイヘリサレトニ見ノ
浦ヲ但馬ト云ハ名所方角抄ニアルハカリニテ名寄ニ播ナトアリ
同ノ名寄ニ裏作ヘ下ルニ播ナノニ見浦ニテ時鳥ヲ聞テヨメル歌モ
アレハ昔ハ京ヨリ下ルニ播广ノニ見ノ浦ヲトナリシト有ト見ヘ
タリサアレハ爰ノニ見浦ハ名所方角抄ニヨリテ後人附會シテ
イフナルニヤ方角抄又タニカル書ニアラサレハ信ニカタシ

按ニ此名所象々、説アリ榮雅抄ニモニ更浦、但馬橋アニモア
リト云テ何レ庄定カナラスサレト頬阿ノ井蛙抄ニモ薦輔ノ歌ヲ引
テ詞書ニ但馬ノ湯ヘニカリケル時ニ二見ノ浦ニトニリテトアリ
トカキ置レシハ此國ニ定メタルナリ河合氏モ深ク考ヘサリ
カ花月六百韻トカムモノニ柳コリフタミノ浦ノ湯イリ舟トイヒ
シコソ所ガラヨクカナヘレ

觀音浦 道記曰橋アリコレハ温泉寺觀音ノ尊像ナガレヨリシ
ヲ替文力取アゲシ所ナルニヘ此名アリト

來日嶽 延喜式曰久流比神社

澤菴之集

名ニキニス涅ニヌエトモクロニヌヤクルニガダケノ雪ノ白妙

何レノ時ヨリ力神社ヲロノ村ニ移ス山ニ今ハ禪刹アリ高峯山雲
光寺ト云盤珪ノ流ナリ 此山ニ蟠轂アリ俗ニ當國人昔湖ナリ
シ時此山水中ニアリシ證ナリト云貝原氏ノ大和本草ニ曰蟠轂ノ高
山ノ上ノ大石ニツキテアルト中華ノ書ニ見ヘタリ日本諸州ニモ
往々有之ト又邵康節ノ説ヲ引テイヘルハ凡天地ハ十二万九千
六百年ノ一元氣ト其壽數終レハ万物滅テ又アラタニリ生
ヌタ、石ハ元ス今ノ高山ノ蟠轂前ノ天地ノ時ノ大石ニツキタルナリト
湯島 此湯ノ名古書ニアラハルハ古今集ヲ始トス頃ノ倭名
鉢ニハタニ方ノ温泉郷ヲ載セラレタレハ但馬ノ湯トノミ云ルニ
ニキラハシキ方モアレト能宣ノ家集ニ但馬ノ湯ヘ行人ノ結浦ニ
テヨメル歌アリ頃モ能宣モ同ク天暦ノ御時梨壺五人内ニ

テ後撰ノ撰者ナレ、真比モツハラ都人ノ麥ニ來リトナリ新後
撰ニ、山階ヒナ左大臣、弥重ヨイ比但馬ノ湯アミニニカリケル道ニテ

思ヲシ都ノ花ノヲモカケノタキモ、ナレヌ山ノハノ雲

コレハ實雄サチヨウトテ西園寺實氏ノ弟ニテ龜山院ノ弘長元年ニ左
大臣ニナリシ人ナリ後堀河院ノ皇后安嘉門院ノメサレニミハ所

ノ名

サタカ

ニアリ増鏡卷八

曰文永四年長月ノ比左ノヲト、ノ近衛殿

ノ日野山庄ヘ一院新院大宮院御幸アリ其同フロ安嘉門院丹後ノ

天橋立御覧ニトテラハシニスソレヨリ但馬ノキノサキノイテユメニ

ニシタラセ玉フ為家ノ太納言老成ノ三位ナド御トモツカフニツル

トコレモ龜山院ノ御時ナレハ鎌倉ニテハ惟康將軍ノ代ニアタレリ

其後吉田兼好ノ集ニ見ヘシニ花ノ盛但馬湯ヨリ飯山雨ニテ

シボラジヨ山ワケ衣春雨ニシツクモ花モ匂フ袂、

同比頃阿法師温泉寺ニテ

ワケテキク麓ノ泉峯ノセミ

コレハ所ノ人ノイヒ傳フルノミテテ彼集ニハ見ヘス後奈良院ノ御

宇天文十七年九月下旬鷹司冬平公飛鳥井雅教卿トビニ此

湯ナサルアル日温泉寺ニ詣テ五ニ蹴鞠ナトアリシニ御隨身德丸藏

人ト玄モノ閑山道智上人ノ塔ニ向テ

カモコクモ踏フミワケニヨリタヘヤラテ道ニル山ノ名コソ高ケ

懷紙ハ今モ彼寺ニ傳ヘ又レト世ニ記セルモノナニ國初ノ時韓人來

聘シテ本朝ノ事ヲ問ニ林春齋先生日本事跡考ヲ撰テ贈ラル其

内ニモ但馬國温泉アリト云リ澤菴ノ集ニハ城崎ノ湯ヘニカルトテ

舟ニ移リテ イナ舟ノ下ル河瀨ニカセツ水心ニ人ノ心ヲ
河合氏道記ニ曰昔ハ島ニテアリシトイヒ傳テ今コノ邊新田多ニ
ヨリ北へ流ル、川ノ端ニ船著場アリ町ハシシ西へ引退テアリ町中ニ
西ヨリ東へ流ル、小川アリ此川上ヘ竹野ト云處ノ嶺ノ麓ヨリ落
ルトナリ湯壺ツボモ町ノ家モ皆此川ヲ挾テ西方ニアリ此川末ニテ落
アヒテ津居山田結村ノ間ヨリ北海へ落ニ此川筋昔ハ海ニテ觀
音浦サウマ、浦二見浦ナト云皆此川上ナリ凡此地ハ但馬ノ内ニテ北
ノハシニ西ハ因幡ニテ鳥取後ヘ十八里南ハ播ナニテ姫路ヘ十四里東舟
渡ニテ宮津ヘ十二里北ハ北海之 按ニ此地ノ名上古ハ大渓ト云
シラ温泉アルユヘ俗ニ湯、島ト唱ヘテ終ニ古名ヲ失ヘリ

温泉 丁本堂藥選續編曰但馬城崎温泉三數座アリテ新湯ハ瘡
ヲ發シ瘡湯ハ瘡ヲ愈ス地ノ相去丁三五步ニ過スニテ一ハ發ニハ止ハ
冷一ハ熱其效其氣迥然同ニカラ珠サルトカクノ如ニ是其湯ノ別ニ
湧源アルニ非ス必コレ丁泉脉ナルヘビ而ルニ其相反スルトカクノ如ク
ノ異ナルモノハ是其脉宍邊旁ノ土石コレセシムル所ナルノニ通天下
人温泉皆同ニ新湯ラ瘡湯ノ宍ヨリ出サシメハ必瘡ヲ愈スヘシ却テ
瘡湯ラ新湯ノ宍ヨリ出サシメハ必瘡ヲ發スヘシ且曼陀羅湯ノ如
東槽ハ瘡ヲ發ニ西槽ハ瘡ヲ愈ス其間タ、コレ一扇板ノ隔ノミ何ソ一扇
板、隔アリテ泉脉ハルカニ別レ効能癸止カクノ如ノ異ルヤコレ其脉宛
邊旁土石性ヲ變ニテ然ラシムルト以テ見ツヘシ

新湯 藥選曰此邦諸列温泉極テ多シ而、但馬城崎新湯ラ最第一トス
道記曰一ノ湯二ノ湯ト分テニツアリ是下ノ町ノ入口ニアル湯ナリ

湯熱シテ湯ノ勢ツヨシ隔日ニミテ今日ハノ湯ヲトメ湯ニミテニノ湯
ヲ入コミニミ又明日ハニノ湯ヲトメ湯ミシテ一人湯ヲ入コミニス暮切
ニ幕ハシニヒテ夜ハ一ノ湯ニノ湯男女ヲ分テ入コミトス爰ノ湯ハ
右馬ノ如ク湯壺ノ底ヨリ沸^フニアラス一ノ湯ノフキニ湯口トイヒテ
岩ノ下ヨリ沸出ルナリソレヲ^トア^ヒト^ヒ通ニテ仕カケテ一人湯ニノ湯トス湯
ハ甚アツクキレイナリサレト塩ハユキユヘ飲食ニ用ヒカタシ近年
爰ノ湯リモテハヤスト京都ノ醫師後藤左一郎此湯ノ諸病^カ
アルヲ考テ說^ト廣^ロメシユヘ幾内ヨリ始テ諸國ニ聞傳ヘテ入湯ノ
モノ多シ後藤氏カ說ニモ此新湯ヲ勇ニ^シ称シテ此湯ハ克血シメク
ラニ運動シテ鬱滯ヲ解クノ功アル^ニニ諸病ニ効アリト云又日ニ
ヨリテ湯ノアツキ時^ハ湯口ノ鑿^{ハシ}ラヌキテ湯ヲ仕カケテアツクスルナリ又コ^ニ
シ又ヌルキ時^ハ湯口ノ鑿^{ハシ}ラヌキテ湯ヲ仕カケテアツクスルナリ又コ^ニ
ヨリ上ノ湯ニノ湯壺底ヨリ沸^フモアリ

中湯

又曰ニアリ俗ニ瘡湯ト云コレハ一切ノ瘡瘍ノ類ヲ早シ愈

スユヘナリワキテ揚梅瘡ヲ煩フ人ノミヲ此湯ヘ入ルト云ノ名ニ
アラス中比京都ノ醫師賀久道節津田幸菴ハ此湯ニ心ヨヨセテ
此湯瘡類バカリニアラス諸病ニヨロシト称義セラレシユヘニ其比湯
治ニ來ル者ハ多ク此湯ニ入シトナリサレト近世後藤氏ノ論ニハ瘡
疹ノ類モ早シ愈スハ宜シカラス只新湯ノヨシ氣血ヲ調和シ瘡
瘍ヲノツカラライツルニシクナシトイヘルユヘニ新湯ニ入者多シ
上湯 一ツナリ中ノ湯ノ上ニ並テアリコレハ所ノモノ、洗足ノ湯ニ用
ルナリ惣シテ此所ノ者ハ平常ノ浴ニモ温泉ヲ汲テツカフユヘ

ニ所ニ風呂居風呂ノ類希ニセナシ此島ノ番下ノ町ニテ上ノ町ハ
野道ノ民家ヲ隔テ又一筋ノ町アリ下ノ町温泉ノ左右皆客舍ナリ
大津屋井筒屋油屋板屋十軒云能家十軒ハカリアリ其外ハ小家
ナリ想シテ湯島ノ町ノ能家トイフハ皆下ノ町ニアリ

御所湯 ニツアリ御所ノ名アルイツレタス此湯ハヌルシテ
其効モニブシサレト湯ノ性ノ和カナルニヘニ虚症ヒラマツノ類ノ弱キ病人此
湯ニ日ヲカサ子テイルヲヨシトストナリ

曼荼羅湯 法華靈場記曰日真師北國御弘通ノ砌但馬國湯
島ト云處ニ赴キ玉ア此所ノ療湯涌ワタリ上ル丁甚ヨク熱アツキ又恐カ冬ニ故
ニ病人タテ々行向ヘニ足ヲ入侍ルカナワス師コレヲ見玉ヒテヤガテ
曼陀羅ヲ趁シテ温泉ニ沈メ玉ヘソレヨリ滑然トシテ和キ病人西
方ヨリツトニ集リ偏ニ真師ノ德行ラ貴ム是以テ今ノ世ニテモ曼陀
羅ノ湯トイニ侍リヌサレハ此處ニ一舊寺キハジアリ彼是真師ノ行業ニ伏
シテ遂ニ是モホ寺ト改ケル

傳ヲ考レハ上人諱イニシハ真字ハ惠光享祿元年逝ス河合ハ此事ヲ
山城名跡志ヨリ引テ其文コレトシ異ナリ故ニ今本書ヲ用テ記
スノニ河合氏又縁起ヲ引テ曰元正帝養老元年道智上人此明
神ノ靈夢ヲ得テ三木杉ノ下ニテ一千日ハ曼陀羅ノ法ヲ修シテ温泉
ヲ祈リ出シケル故ニ曼陀羅湯ト名ツケシトカヤ是ヲ以テ考レハ道智
上人ノ後日真上人再ニ曼陀羅加持ヲ行セラシト見ヘタリト故
老ノ語リ傳フルニハ此谷ノ奥ニ鶴コウノ湯ト云所アリ昔シ鶴ノ鳥アリテ
足ヲ損シケルガ谷ハ下リテ真足ヲ浸ス土人アヤシト思ヒ見ケルニ日

ヲ重テ力クシケルホトニ真足ノ瓶イヘテ蓋ヌ土人真跡ヲ見シハ温
泉アリコレニ因テ温泉ノ効アルヲラ知テ人モ洛ケル是此地ニ湯
ノアラワレミハミメナリト今薬師堂ノ前ニアリ
陳屋 道記曰御所ノ湯ノ鄰ニアリ以前豊岡ノ領ニ時ハ京極殿
ノ休所ニテ茶店^{サテン}ノアリシ處之今公領トナリテ代官ノ陳屋之内ニ
湯壺ニツアリ殿ノ湯ト名ツケテ常人ハ入事^{ナラス}
非人湯 下ノ町ハツレ裏町ニ湯壺ニツアリ乞食ノ入湯ナリ是非人
ノ長^{コサ}構^{カニ}ニシテ湯屋ノ修理等ヲスルコナリ常ニ浴スル人ノスグナ
キユヘニ湯壺甚奇麗ナリ

四所明神 上下ノ町ノ間ニアリ是則日生下氏勧請ノ神ニテ當地鎮
守ニ又曰元明天皇元年三日生下權守ト云モノ、夢ニ西人ノ老翁有テ
我ラハ出石明神ノ眷屬之此地ニ跡シタレテ人民ヲ利益セントナリ日
生下氏此靈夢ニ驚テ此地ニ祠ヲ建テ四所明神ト崇シト

藥師堂 曼荼羅湯ノ上一町許ニアリ仁王門ノ額赤代山トマリ聖武
帝ヨリ給ル温泉寺ノ山号ニ本堂東向ヨキ堂也脇ニ十王堂アリ
又菴アリ則番所也爰ニテ茶ヲ煮テ價^{アキ}ラトル又楊弓^{アキ}射ル

觀音堂 藥師堂ノ側ヨリ三町ノ坂ラノホルコニ則温泉寺ノ本堂
ニテ甚壯麗也本尊ハ此地ノ温泉ヲ道智上人開基、後都ニ誓文
トイフ佛師アリシ力長谷ノ觀音ヲ作リシ木ノアリニテ觀音
像ヲ作^サテ和列長樂寺ニ置キタリシニ誓文俄ニ中風ノ病ウケテ其
近所ニモ瘦疾^{ヌキ}ヲ得ルモノ多カリシカハ村民此觀音ノ崇ナリトテ
尊像ヲ神川ニ流シ棄タリシニ後ニ誓文此湯寫ニ來リテ入湯シ

海辺ニ遊フノ時觀音ノ像ヲ流ヨリミテ取上見ヘ神川ニ棄ニ
像ナリミ力ハ奇異ノ思ラナニ道智上人ト謀テ大伽藍ヲ建立ニ
其尊像ヲ移シタリシハ今ノ温泉寺也ト縁起ニ見ヘタリ

此寺ハ但馬須礼三拾三番也

次郎兵衛墓　澤菴歌集ニ

身ノ昔シ結ヒシエニカ此國ノミユシノ雪ノフル墓ノ松
武家評林ノ傳ニ曰次郎兵衛盛継ハ但馬國城崎郡山中ニ隠居ケリ
川ヲ阻^{ハサウ}悉^{ヒツ}妻ノ方ヘ夜々通ヒナレケリ盛継常ニ蜜^{ハチ}持^フ好^シテ
袂ニ入^ス道スカラ^ア食歩^ミケリ彼皮何必ナニ道ノ邊リ川中
モ捨ケリ川下ノ在所^ハモノ^アト氣^ヲ付^テ毎朝川上ヨリ蜜^{ハチ}
皮ノ流下ル如何様^{アリ}アル人^ノ川上三住ト見ヘタリ殊^{スム}鑑倉^{ヨリ}
越中ノ二郎兵衛盛継御尋^{ハシメ}者ナヒ^シ若^シ尤^モ様^{アリ}人ナテハカリ^シ
出^ス御褒表ニ預^シトテニ三在所^{アリ}暱^ニ催^シ一千人計ニテ川上二三里
力間^ヲカリシ山中ニ小キ家アリ押寄見レハ如何様只人ト
見ヘサル男ノ太刀追取立向^ヒ何者ナレ^シ此所ニ來ルト云ヘ^ハ在所^ノ
者氏サレハ御尋^{ハシメ}ノ二郎兵衛十^ナント我討取^シトヒシメシ盛継コレ
ヲ見テ我ラハ誰ト力思フ平家ノ士大將越中前司盛俊^{トシ}ガニ男
次郎兵衛盛継トハ我事ニ常^子夫^ニノ人ト思フカ已^シ原^ラニ三人十ギ倒ス何
念ナレ^シ是近ト太刀ヲ拔^シ手本^トニ進ム奴原^ラニ三人十ギ倒ス何
力下^シ萬^ハノ事ナレハ辟^{ハシマ}キ發^ト四方ヘ^{アシテ}子^ヲ散^ス如^ニ逃^ケハ^シ手
本^トニ敵一人モナシ又^シ寄^カ来^ルラ四五人切伏^シ二三人手ラ負^セ又
引入^ハ大弊寄^カ来^リ取^カ卷^ヲ惡^ヒ奴原哉懲^モモナキ下^シ萬^ハメラ

ト切テ出ルヲ在所ノ者ノ中ニ小翼カミキ者有テ家ノ後ヘ巡火
ヲサシタリ盛継一人十人是弱リ大勢ノ中ヘ割テ入四方八面
ニ切廻ハシマツルハ七八人矢庭ニ切殺シ其外手ヲ負セ狂ヒ廻レ氏次弟三大
勢ナレハ勢力ツカレ終ニ爰ニテ討ケリ首ヲ取テ守護ヘ訴ヘ
ケレハ鎌倉ヘ遣サル所ノモノ勇士ノ誉ノ人ナレトテ湯嵩ニ墓
ヲ築キ仰ラ植ニ郎兵衛墓トテ今ニ有ト矣ル

河合氏道記曰辨方天ノ下川端松一村ノ中ニ石ノシルニアリ是
越中次郎兵衛盛継力墓之土人ノ說ニハ盛継力相馴シ遊玄此
湯嵩ニアリシカ盛継力死後ニ築タリト云又湯島ヨリ一里計
良ウエドウノ方ニ氣比村ト云處ニ七次郎兵衛墓アリ爰ノ里ノ說ニハ昔此
处ニ宮代將監ト云人アリ盛継流落リラクノ時スハ將監ニ扶助セラレ

テ居ダリシニ將監力娘ニ通シテ夫婦トナリケル程ニ盛継力死
後ニ爰ノ墓モ湯島ノ塚モ共ニ彼娘力築タリト云サレト一人ニ
テ兩所ニシルミラ達ルトモイブカシケレハ湯島ノハ遊女力達
タルトモアルヘシイツレモ土人ノ說ニテ宮代將監ト云モノモ
曰記ニ見ヘ子ハ慥ニ證トシカタキニヤ

右二說氏傳聞ラ記シ又レハ画々ニテ決シカタシ一說ニハ宮代將監
鎌倉ノ命ヲ畏レ盛継ヲアサムキ美含ノ方ヘラモムカシメ湯島
口ニ伏兵ヲ設ケテ是ラ生獲鎌倉ヘ送リ彼方ニテ殺サレト云
リ平家物語ニハ壇浦ノ合戰ニ次郎兵衛ナトハ如何ニテ道ケリ
ケントバカリアリテ何國へ行ヒイワス東鑑ニモ達久三年
囚人上總五郎兵衛忠光カ白狀ニ越中次郎兵衛盛継去年ノ

此丹波國三隱居ノ彼同會簪ノ志ヲ存メト力當時ニ於テ在所
ヲ知難シ曾ニ一所ニ定ムスト云シ計テア其後捕ヘラヒモ殺サシ
モナシ久シキ昔物語何ヲカモ松ニハセシナリ
日和山 道記曰下ノ町ハツノ北ノ方ノ山ナリ北ノ外海見ヘテ佳景之
名所ニアラス 近年下ノ町ノ南山ニ愛宕ラ勸請ス眺望イヨタ佳ニ
桃島 道記曰湯島ノ小川ヨリ舟ニ乘テ大河ヲ北ヘ出ル川筋ノ通
小山アリ桃山ト云桃島ト云在所ノ前ニ延喜夫神名帳ニ桃島神トイヘ
ル爰ナルヘシ 今八幡宮ヲ祭ルコレナラン

津居山 朝鮮ノ申叔舟カ海東諸國記曰源國吉丁亥年使ヲ遣シ
來テ舍利分身ヲ賀セシ文書ニ、但馬列津山ノ閏佐木兵庫助源國
吉ト称ス 按ニ時朝鮮ノ圓覺寺ニ花フリ舍利分セ之事アリ

力子テ好ラ通セニ日本ノ人アニタ使ヲ遣シテ是ラ賀ス丁亥ノ應仁元
年ノ源國吉未考 夫津山ノ丹生諸寄ト凡ニ當國ノ三江ト称ス北
海運漕ノ舟ノ泊スル所ノミニアラス女直韁且ノ諸夷モ海ヲ隔テ相對セ
リ閩ヲ置キ戊シ嚴ニセテハカナワサル所ノ然ニ此閩ノ事本朝ノ書ニハ記セル
モノヲ見ス

道ノ記曰土人ハ誤テ津山ト云北海ヨリノ潮ノ指口ニテ糧師ノ居
在所ノ湯島ヨリハ一里トイヘ舟ニテ行ニ甚近ニ左ノ方ハ小島
ト云ソレヨリ瀬戸津居山トツキテ在家アリ津居山ヲ外ヘ出
レハ野知ガ島アリ其外岸ノ岩庄ナニミノ名アリテ湯治ノ男女湯
ニ入ヘニテ行厨ケ筒ラ携ヘ爰ニ遊テ岩上ニ鐘ラニキ漁舟ヲ
招テ鮮魚大貯リ鮆ニ調ニ柴火ニヤキテ酒ノミ興スル處ニ遠シ

望メ、北ノ海濱^{シカウ}迄^{ハウ}テ國^ミ及^ム島モナシ鷗岐國[。]成^ス志アキ
テ天氣晴ル[。]日^ハ希ニ真^ミ元^ルアリトソ又津居山^ハ出ル[。]川
筋ニ鴨白鳥[。]類多シ中ニ唐鳥ト云鳥アリ鳩^{ヨリ}ハ大ニ^ス矢
鷗^{カモメ}ニ似テ翼^{ツバサ}色紅鷺^{トトカ}コトシ珍^{ミツカ}ニキ鳥ナリ

國人傳^ヘ云上古此辺皆湖^ハ出石[。]神ノ新羅ヨリ來リ瀬戸ヲ
開キ玉^ヒニテヨリ湖水北海ニ注^ハクテ庶民安息セリト況菴^{ミツカ}
推^{ヨシ}アケシ瀬戸ノ昔ノ神代ヨリ滿乾^{ミツカ}ニヤスキ朝^{アサカ}ナタミホト詠セラレ
シモ此事ニ竟^ハ時ニ禹^ウラシテ洪水ヲ治メシムルニ九河ヲ疏^{トトカ}シ濟^セ
漂^{ハス}ラ淪^{サス}テ是ラ海ニ注^ハキシトアレハ此國ノ古モカクソアルヘキ然^ハ
好事^{コウス}ノ者其事ヲ誇^{ハス}大ニセントテ但馬一国皆大海ナリシト云夫ニ
附會シテ出石ノ安地山^ハ其時^{アシ}鯈^{ツバツ}釣^リシ養父ノ綱場ニテハ綱^{アミ}
引^シナト甚シキ^ハ建屋^{ハヤ}磐^{スリ}ガ峯^ハ往来^ノ舟^ノ底^{ラス}リシト云
或^ハ伊佐ノ舟山^ハ某神^ノ召^シ御舟ナリ出石ノ鳥籠尾^{トヨシ}ハ彼瀬戸
ヲ切開^キ玉^ヒニシ利劍^{ハシ}ヲ鑄^シ金床ナリナト名^シヨリテ附會シテ^ハ
イニ其本源ヲ窮メズ總^ステ此國ノ水道ヲ考ルニ朝來養父出石氣
多ノ四郡^ハ其水皆城崎^ハ下テ海ニ入^エヘ此處フサガラ^ハ以上五郡
ハ湖トナルトムベナリ七美二方美倉^ハ水道モトヨリ別十^{ハコ}ノ^ノ
通塞^{ハシカ}ニマツカラス一國皆湖ナリシト云ハ不知^ハ日本記^ヲ見レ^ハ
出石ノ神ノ始テ住处ヲ定メ五ヒシ時出島^{ハシカ}太耳ト云モノスニテ
其子ニ麻多鳥^ト云モアレハ安地山ニテ鯈^{ツバツ}釣^リベキサニニアラスニ
シテ磨^{スリ}カ峯^ハ養父郡ノ高山ナレハ是ニテ舟ヨスル程ナラハ綱場^{ハシカ}
ニテ綱^ヲ引^シ人^ヲ住^ヘキ地ナシコトニ伊佐ノ舟山ラ舟ニシテ召ル

神德ニテ鳥^{シカ}讐尾ノ利劍ヲ作ラセラレモイフカニハ且城崎大
河ハ直ニ津居山^{シタマツリ}前ラ經^ヘテ海^シ落別ニ瀨戸ヲ開^キニ及ハス此類ア
リ奇妙ニヒツノリアレハ神明モ却テ疑ニキヤウニナシリタ、
城崎ノ内河ト云ヨリ出石ノ城北ニ水^{ミズ}多々ヘモヲ瀬戸ヲ開キ津
居山^{シタマツリ}瀧玉^{タマツリ}ニシト云此說美ニ近カルヘキカ
餘戸^{ヨリハ}此說割度考ニアラワス其地ハ田結郷ノ内ニアルヘシ今
定カニ知レカタキユヘ強^{シイ}テイハス

大須賀時基郡境ノ記曰城崎郡氣多郡美倉郡三郡ノ境事
菅谷アラ谷ノカシラ矢ツキガ嶽^{カツク}ハ西八合地藏力池三本ヅナチウ
ダラボウソカ限^リ三本柳地藏^{カツク}ガハナ上坂^{カミザカ}ム子ノ地藏堂カキリ下坂
モム子カキリ来日^{ツル}山^{カツク}ハ西セ各ハ千カ九合横道ガキリ山^{カツク}ハ尾切

湯嶺^{カタケ}モム子ガキリ松本嶺ハミツ石ハム子ガキリ山^{カツク}ハ尾切モリアゲ
カシラ北ハ寺屋數瀬戸ト田久日^{カツク}ト郡境事各ハ壹町七間ノ石垣カ
限^リ谷^{カニキ}ハナメラノ清水下^{シタ}ハ谷ワリ磯^{カキ}ハ要^{カニ}カ岩冲^{カキ}ニモ封^{カキ}アルヘシ
十里迄出シハ申ストモ一里二里之沖ハ一里半東海ハ一枚ナリ丹
後ト但馬トノ境ハアサイカニイハラシ合ノ地藏冲ハ三里^{カキ}越^{カキ}
地藏冲ニモ封爾ハアルヘミ^{カキ}諸^{カキ}ハ屏風カ岩山ハ猩々ガ谷竹ノ子谷
ノ頭山ハ尾切三原嶺ハ堂ガ限^リ山ハム子ギリウナニ山尾キリコン
ゴウジノ頭ハミツラガキリコウナシ嶺^{カタケ}ハ三昧地藏立石カキリ太坂^{カタケ}

嶺ハキリ右丹後ト但馬トノ境ニ

但馬考卷之八

地理第六

美含郡

風土記曰郷拾參所里肆所神社五所古老傳ヘイフ此郡地中
水溢ル故ニ井水淺シテ汲ム水汲ト云今美含ト云ハ音ノ轉
セルナリ此郡五穀乏シテ魚甲鳥類多ニ故ニ土民寡シテ漁父多ニ
郷六 倭名鉤ニ見工 佐須 竹野 香住 美含 長井 餘戸

神社 延喜式神名帳曰美含郡十二座并小

佐受神社

鷹野神社

伊伎佐神社三首

法庭神社

美伊神社

椋橋神社

阿故谷神社

桑原神社

出石城臣櫻良翰輯

色来神社

丹生神社

佐須郷

太田文曰院御領佐須庄七十八町七反十歩 地頭太田千熊丸
今ノ村數二十 濱須井 奥須井 相谷 濱安木 奥安木
訓谷 無南垣 久斗 丹生地 早渡 下岡 上岡 番

三河土生

本見塚

浦上

上

沖浦

米持

俗ニ佐津庄ト云

須井 風土記曰多ク異禽異獸ヲ出ス公穀九十九假栗四十九
相谷 記曰木綿麻桑ヲ出ス已下虫食十字計 公穀五十九假栗三十九

安木濱 記曰已下虫食半十計

無南垣 記曰良材脩竹薯蕷梧桐等ヲ出ス公穀百九假栗五十九

丹生浦 記曰此浦海面一里十步鱈鮭已下脫漏四十計

太田文曰院御領丹生邑六町一反八拾四步 地頭久下左衛門九郎
同曰長井村アリ今何レノ地ナルヲ知ラス

竹野郷

太田文曰竹野郷九十一町六反 地頭安吉院左衛門督法印 公文左衛門
入道信道御家人

今ノ村數十九

宇治

田久日

竹野濱

切瀬

草飼

松本

羽入阿金谷

須谷

芦谷

小九

鬼神谷

東

下塙

大谷金原

林

防岡

森本

神原

小城

二連原

御又

河内

門谷

須谷

大森

桑野本

河南谷

竹野濱

風土記曰

薯蕷

栗

藥品

等ヲ出ス正稅十シ

延喜式ニ鷹野神社アリ今ノ演ノ天神ナリト云若菅家ノ御事ナラ
ハ延喜ノ時イニタ天神ノ号アラス

阿金谷 延喜式ニ阿故谷神社アリ

圓通寺 須谷村ニアリ貞治年中月蓋和尚開山ナルヨシ彼人ノ錄
ニ見エヨレ山名時義ノ建立之明徳元年時義卒ス圓通寺殿ト謚ス
コユヘナリ

香住郷

村救八 境

一日市

若松

香住

森

七日市

矢田

下瀬

按ニ今篠部ノ庄ト云

帝釋寺 太田文曰帝釋寺拾町九反三百三拾步 今下瀬ニアリ
太田文曰美倉庄八拾四町三反三百三拾步 領家淨土寺殿
地頭加賀民部入道行果 今イリノ地ナルヲ知ス恐ク

ハ佐須郷ト混ジタルナラニ

長井郷

村數 矢原 藤村 中野 小原 大谷 三谷 守柄
加鹿野 油良 間室 久斗山

久斗山村 風土記曰多良材脩竹奇石山藥等ヲ出公穀三十九假棗十九
久斗山 同記曰此山嶮岨也多石也出ス鳥獸繁多ニ

餘戸郷

村救二

鎧村

餘戸

俗ニ餘郷ト書ハ謬也其說制度考ニ出ス昔平家ノ浪人西國
ヨリコニ來テ住ス其長タルモノヲ餘戸殿ト云今ニ子孫アリトナニ

但馬考卷之九

地理第七

二方郡

此郡、上古別ニ一國也。人皇十三代成務天皇ノ御宇國ノ造ヲ定メ玉フ舊事本記曰二方國ノ造志賀高穴穗朝ノ御世出雲國造同祖遷拓一奴命孫美尼布命ヲ國造ニ定メ賜フトアリ其後一郡トシテ但馬ニ合セラレシハ何時ニカアリケン古書ニ見ヘス

郷九 姓名鉤三見工

久斗クダカラ

二方

田公タキニ

大庭

八太ハタ

陽口

刀波

熊野

温泉

以上

九郷ニ村数五十四

出石城臣櫻良翰輯

神社

延喜式神名帳曰二方郷五座并小

郡

二方神社 大家神社 大歲神社

面沼神社

須加神社

久計郷

太田文曰長講堂領久計庄四拾九町三百步 領家中納言
下司法眼珍曉御家人實綱跡 公文蓮信願取代光利注文定
今ノ村救七 瀧田 久谷 正法菴 邊地 境 濱坂 福島

二方郷

太田文曰新熊野并歡喜壽院領二方庄六五町九反半 下司舊

野源太吉高御家人

今ノ村救五 清留 赤崎 指杭 和田 田井

三尾浦 後鳥羽院御集

思ヒヤレハキメラ三尾ノ浦風ニナククシボル袖ノシヅクヌ
東鑑ニハ義久三年七月廿七日上皇出雲國大演ノ漢三著御
コノ處ニ於テ御船ニ遷坐ス御供ノ勇士等暇ヲ賜リ大畧以
駿洛ス彼便風ニ付テ御歌ヲ七條院并脩明門院等ニ献セラル
ト云テ同一首アリ

タラナメノ消ヤラテツ露ノ身ラ風ヨリサキニイカテト、
コレニテハ出雲ト聞ユレ近ノ名所ノ書ニ御集ニ引テ但馬トス
此浦ハ赤崎ノ枝村也土人ノ語リ傳フルハ出雲ヨリ御舟ニ召し隠岐
国へ渡ラセ玉フニ海上風アシクナリ因テ此處ニ暫シラハセシトナシ

田公郷

太田文曰伊勢大神宮領田公御厨四拾八町三反 領家修理

大夫家 地頭長井出羽入道祐 國文 公文左近太郎貞直 地頭

代信念注文、定

今ノ村教七 橋谷 七釜 古市 新市 用土 今岡 金屋

大庭郷

太田文曰長講堂領大庭庄七十四町五反百十四步 領家中納言
案主并伊舍下司宮井太郎兵衛尉盛長御家人 物追捕使
宗貞女子 案主代聖願注進之

今ノ村教七 三谷 二日市 宇田高末 釜谷 諸寄

吉ヨセ
アセイ
イタミ

雪白瀧

六帖

讀人シラス

但馬十九雪ノ白瀧モロヨセハ思ヒシモノヲ人ノトヤミニ

名所方角抄曰在所分明十ラス コレ諸寄ノ浦へ

景物 千鳥 月 磯ノ松風 以上秋ノ寐覺ニイツ

諸寄川 懐中枕

心シテモロヨセ川ノ水ナラハ淵瀨モワカスヲモニ渡ラニ
伊舍 細川幽齋ノ集曰コトシ天正十五三月ハシメ博陸殿下
九列大友鳴津ワタクシノ鉢指ヲ留メラルヘキ為ニ御進發ノトア
リ息与市郎同玄蕃參陳ノウヘ家ヲノカレ入道セニ身十六ハ供
奉ノ丁ニテモ十カリシヲ遙ナル御陳ノ程ライタツラニ在國モ空ヲ
ニシテ亡四日湊ト云所ヨリ辰時ハカリニ出舟シテ其日暮ホトニ
但馬因幡ノ境若組ト云處ニ舟トヨリシケル旅宿イト處セクテ
上ナカ下ラウハシキカリ枕シテ

主役モ旅ニシアレハ里ノ名ノ居組ニシタル假ノ宿哉
今居組ハカリヲ別ニ大歲ヨリトシノ庄ト云ハ延喜式ノ大歲神社コニ
イニスユヘナラン本名ハ伊舍イシ太田文ニ大庭庄ニ加ルトアリ居組
トカクハ訓ヨミ同ニケレハ

八太郷

太田文曰新熊野并歡喜壽院領内八太庄亡五町九反半
下司邊栖二郎宗吉御家人 今俗ニ畠ト一字ニカクハ
謬之地名ニ二字ヲ用ヒテ佳名ヲ擇エラフヘシト延喜式ニアリ
今ノ村教十一 井上 千原 鐘尾 千谷 宮脇 内山 越坂
海上 前村 石橋 岸田
面沼マツヌ神社 井上村ニイニス面治マツジ太明神ト云ハ沼ト治ト字ニタルニ
謬九十ラニ又延喜共部式ニ面治ニ驛馬八足置シトアリ古代此
地リ面沼ト云ニヤ

熊野郷

何レノ郷ト入ニジリシヤ其境ヲ知ラス

温泉郷

太田文曰蓮華王院領温泉マツユ郷七拾四町六反半五分 領家民
部少輔入道 地頭奈良九郎太郎宗光同舎弟二郎左衛門
尉正貞 此郷ノ湯村ニ温泉アルエヘ古代二字ニテエト讀セタルヲ
後世知スニテ温泉郷ト云又誤テ泉ノ字ヲ前三カキカヘテ今
湯前マツシノ庄ト云

今ノ村教十六 湯村 熊谷 伊角 檜尾 尾

春木

哥長

祖岡 細田 子 塩山 中辻 丹土 切畠 竹田 飯野 相岡
陽口刀坂ノ二郷ハ倭名鉤ニ和訓十三其地モ考ヘカタシ故ニ強テ
論セス惣シテ此郡中諸郷ノ土地其村入ニジリテ正ニカラス古代
ノ境ノ失ナヘルニ似タリ重テ其地ヲ踏スニハ妄ニ議シカタシ故ニ
今ニバラク土人、説ニ從テ是ヲ記ス

但馬考卷之十

地理第八

七美郡

郷五 和名鉤ニ見工

免束

七美 小代 射添 驛家 以上五郷ニ村数七十三

神社 延喜式神名帳曰七美郡十座并小

多他神社

小代神社

悉都美神社二座

伊曾布神社

等余神社

高坂神社

黒野神社

春木神社

今延喜式ヲ考ルニ八座ノミアリ俗間ノ書ニ此郡名ヲ七味ト書ハ非ニ

免束

出石城 櫻良翰輯

太田文曰長講堂領免東庄五拾二町壹反半三拾步 領家寧
相法印 下司免東丸衛門入道々惠御家人

此鄉中ニ免東村アリ俗ニ鶴塚トカク故老ノ語リ傳フルハムカニ
上野原ニ免スミシタ西殿ト云人狩出ニ首ヲ剝テ是ヲ埋ム今ニ
其塚アリ然レハ鶴ノ字カクハ然ルヘカラス大閣ノ時山名入道殿當郡
ヲ領知シ玉ヒ初テ免東村ニ館ヲ構ヘ其名ヲ忌テ福岡ト改メラル
故ニ今此鄉ヲ福岡ノ庄ト云

今ノ村教十四 日影 宿 黒田 作山 鶴塚 繖多 八井谷
森脇 和地 池平 高坂 口大谷 中大谷 大庭

七美郷

太田文曰長講堂領七美庄三拾三町 領家高辻播磨守

地頭和泉入道淨有 今壹貳分庄ト云其說制度考ニイダス
今ノ村教十四 村岡 繖多 用野 鹿田 相田 神坂
萩山 枝仕野 福西 大糠 高井 寺河内 耀山 市原

萩山ハ太田文曰村岡今山名公ノ館アリ

小代郷

太田文曰長講堂領小代庄三拾八町 領家近衛殿 下司

八木七郎入道見阿御家人

今ノ村教二十 神場 廣井 水間 郡間谷 實山

平野 第野 新屋 秋岡 東垣 佐坊 鍛冶屋

貫田 忠宮 猿多 大谷 城山 久須部 神水

石寺

射添郷

太田文曰歡喜壽院領射添庄古六町六反三百四拾步 領家
按察使二位家御跡 地頭射添弥三郎 公文半麥大郎入

道御家人

今ノ村救十三 入江 和田 長板 熊波 丸味 川會
高津 長須 味取 原 長瀬 山田 境

驛家

太田文曰八幡宮領熊次別宮六町七反半四拾步 地頭瀬魚田
入道西念跡三人領一人左衛門五郎入道了忍一人佐藤二郎入道性
驛ハ馬次也驛家ヲ今俗ニ駒次庄ト云其義ヨク合ヘリ
太田文ニ誤テ熊次トスソレヨリ小サカシキモノ駒次ヲ非ナリ

ト云ハ却テ古書ニウトキ也延喜ノ時ニ驛ヲ射添置
レタリ式ニ見エ

今ノ村救十二 大野 葛畑 小路比 河原場 外野
草出 梨原 飛戸 奈良尾 福定 大室窪 別宮

國中八郡五拾九郷其土地ノ境乱レサルモノ殆ニナリ
只此郡國ノ西南ニアリ四面山ヲ負テ通行甚難之故
ニ外人タヤスク其地ヲ踏ムエス今ノ庄ヲ以テ古ノ郷
ヲ推ニ五郷ノ境毫厘モタガフトナレ先王制度ノ跡
モ於是見ルヘシ只中古以来王道盛ニナラス礼樂征伐
コニ及ハス膏腴ノ地ナシク連逃ノ剝離トナリ小代一
揆射添豪盜ノミ今ノ世ノ口スサミトナレリ百年以來

山名公ノ采地トシテ庶民撫育ノ化ニ誇レ匠古書三見
タルトスク十キニヘタ、古ノ錦ヲ以テ其村々ニ記スノミ



但馬地理考畢